

タイトル名「対人援助実践をレポートするこの一冊」

第32回：第4章-その4-

NO MANGA, NO LIFE.

著：高山かおり

企画：渡辺修宏

小幡知史

二階堂哲

はじめに

私は現在、幼児2人を育てている主婦である。以前は、対人援助職を養成する学校の教員をしていた。所持資格は、臨床心理士と公認心理師である。今回、研究室の先輩であり、職場の上司でもあった渡辺先生に声をかけていただき、原稿を書かせていただくことになった。大変ありがたいと思う反面、はたして、私で力になれるのだろうかと思いながら、筆を走らせている。

私にとっての漫画について

まず、今回のテーマである漫画についてだが、私は日頃から漫画を読む人間の部類に入ると思う。よく読むかどうかは、個人によって感覚が異なると思うので、より具体的に示すと、昨年は、1年間で700冊以上を読んでいる。どんなに少ない年でも、年間300冊は間違いなく読んでいると思う。以前は紙本派であったが、引っ越しが多いこともあり、現在は専ら電子書籍である。

私にとっての漫画は、趣味であり、癒しであり、生きる糧である。

しかし、多くの漫画を読んではいるものの、今回原稿を書かせていただくにあたって一番躊躇した点は、漫画で学びを得ようと思いつつ読んでいないということである。何かを学ぼうとして読もうとすると、疲れてしまう。ただひたすらに漫画の世界に没頭しているのである。

漫画と学び、そして対人援助への繋がりについて

ただ、結果論ではあるが、学び等に繋がったことは幾度もあったりする。

対人援助に繋げるならば、他者と話をする際の話のネタとして、漫画で得た知識が活かせることが多い。

たとえば、漫画の登場人物たちは個性的な名前が多いため、難しい漢字や珍しい名字の読み方が自然と身についたり、妖怪の名前や兵器の名前、カクテルの種類、スポーツのルール、方言等、超インドア派である私が普通に生活しているだけでは、なかなか出会えないような知識に触れ合えたりする。

もちろん、漫画ファンの方であれば、作品そのものの話もできるため、コミュニケーションをする際の、話の引き出しには、あまり困ったことはないかもしれない。

また、漫画がきっかけで、学びにつながったこともある。私は大学で、第二外国語に中国語を選択したのだが、きっかけは、小学生の頃に読んだ中華系をモチーフにした漫画である。「ありがとう」の言葉が「谢谢」と知り、中国語を勉強してみたいと思ったのだ。なおその後、香港漫画にも興味を持ち、広東語を少しかじるようになり、今は韓国漫画がアツいこともあり、韓国語もかじりはじめている。

漫画がきっかけで、私の世界は、より広がっていると感じるが、もちろん注意しなければならないこともある。漫画に限ったことではないが、内容の全てが必ずしも正しいわけではないということである。

たとえば、かつて読んだミステリー漫画では、カウンセラーが薬を処方していたり、恋愛漫画では、カウンセラーとクライアントが恋人関係になっていて、ひっくり返りそうになったことがある。自分の関連領域であれば、間違いに気がつくことができると思うが、他領域となると難しいかもしれない。

もちろん、漫画作品の世界は、必ずしも現実の法律等と一致するとは限らないのだが、怪しいと思ったり、気になった時は、その都度調べるようにしている。

なお、漫画家の先生たちも様々な背景を持った方が多数いらっしゃるため、ご自身の経験を題材にして描かれていたり、入念に取材をされる先生もいれば、医療系や闘病系の漫画であれば、医師等の監修者がついていることも珍しくはない。近頃は、無理に漫画で何かを吸収しようとしなくとも、自然と漫画で学べるようになっていく作品が増えてきている気がする。

私の神だと思える漫画（以下、神漫画）について

最後に、勉強をしているつもりはないのに、読者は、いつの間にか学習している神漫画についても書いておきたい。何がすごいかというと、一番は、記憶の持続性である。私は、幼少期にその作品に触れてから、30年以上保持し続けている。仮に忘れそうになっても、キャラクターの名前から想起しやすく、再認はもちろん、再生でも、間違えることはない。

その神漫画の名前は、武内直子先生による『美少女戦士セーラームーン』である。主人公

は、月野うさぎという名前であり、セーラームーンに変身する。仲間の水野亜美はセーラーマーズ、火野レイはセーラーマーズというように、それぞれのキャラクターは、太陽系の衛星や惑星がモチーフになっている。月は Moon, 水星は Mercury, 火星は Mars といったように、セーラームーンの読者であるならば、冥王星まで、英語名で衛星や惑星の名前が言えるのである。

なお、当時は、英語を勉強しているつもりは全くなかった。夢中で漫画を読んでいるうちに、キャラクターたちに魅せられて、自然に覚えているのである。

教員時代、楽しく学べて、かつ記憶の持続性が保たれる授業ができたかと思っていたが、実際は非常に難しかった。私にとって、理想的な教材であり、不動の神漫画なのである。

おわりに

先述したが、私は今、主婦をしている。そろそろ社会に戻りたいと思っても、子どもが体調を崩しやすく、1週間に1日以上幼稚園を休んでいることが多いため、現実的には難しいと感じている。

ただ、主婦であることで、多くの主婦の方が直面するであろう不安を体感できていることは、ある意味良かったかもしれない。働きたくても様々な事由で働けないこと、周囲が働いている中で自分だけが置いていかれているような感覚に陥ること、ブランクが長くなる中で今後本当に働けるだろうか、そもそも仕事は見つかるのだろうかという不安等、日々様々なことに悩んでいる。

しかし今は、割り切るしかない。子どもたちを日々生かすことが仕事であり、今後仕事をする上での、充電期間だと思おうにしている。そして、再び仕事に就いた際には、より様々な悩みを持つ方々の気持ちに寄り添えたらと思っている。

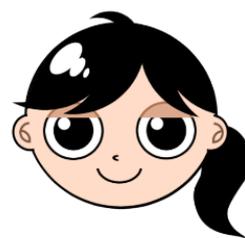
近い将来、自分も対人援助職としてリポートできるよう、今は目の前の家族を笑顔にできるように努めたい。もちろん、自分の元気がなければ、他者へ元気をわけることができない。そのため、私は今日も、自分の笑顔のために漫画を読むのである。

オススメ漫画紹介：

『スパあんこうの胃袋』（著：あきばさやか 先生）

→他者を気づかえるのに、自分自身には不器用になってしまう。頑張るあなた寄り添う、深海魚たちによる温かなおもてなしのお話。

<https://www.kadokawa.co.jp/product/322202000285/>



—つづく—